

Ⓐ層とⒷ層の境は現在の川の流れの水面に相当するところで、Ⓐ層は赤褐色の角レキ層です。

Ⓑ層は、白っぽい砂の層で厚さは60 cmです。

Ⓒ層は中粒の砂層で2.5 mの厚さです。

これらの地層は、第四紀のたい積物からできています。



2. 川原のようすと流水のはたらき

(1) 調べる場所

新田川 ぶんぞ橋

(2) 橋の上から川原のようすや、水の流れを観察する。

① 川の全景をスケッチし、川原や、水の流れなど気付いたことを書き入れる。

② 流れが曲がっている近くで、流れによってけずられているのは内側の川原か外側の岸か。

(3) 川原において流水のはたらきを調べる。

⑦の付近で20 mの長さを取り、内側と外側で流れの速さを測る。また、④の付近でも同様にして流れの速さを測ってみる。

⑦の川原から向岸へ進むにつれ、深さはどう変わるか。

水中のぞき箱で、川底で砂が流される様子を観察する。

(4) 川原のレキを調べる。

川原に立って、平均的にレキが

